

インタビュー
家族に迎えて

センターから譲渡されたワンコ
その後、どうしていますか？

長年の願いをかなえてくれた
ハンタくん

京都市伏見区 原様

10年も前からずっと「犬を飼いたい」と強く願っていた飼い主の原さん。原さんは平成28年にセンターに譲渡希望の申込みをされ、その後も、センターで長く暮らしている保護犬がいると、何度か足を運んでくださいました。そんな中、令和2年にハンタくん(センター名:秋太)と出会われました。原さんにとってのハンタくんの第一印象は「大型犬なのにおとなしく、服を着せることもできて、なんてかっこいい犬なんだろう！」と

ご褒美をもらって満足そうなハンタくん▶

思われたそうです。また、原さんのお仕事の都合上、衛生的な面から、外飼い可能な犬を探されており、そういった条件にもぴったり合ったハンタくんを家族に迎える決意をされました。譲渡が決まり、一緒に暮らし始めた直後は緊張していたハンタくんですが、すぐに新しいおうちになれてくれました。今では日課の散歩のときや、車に乗って御家族で遠出されるときには、すごく楽しそうな表情

▲撮影中も飼い主さんを見つめていました

を見せてくれるようになりました。原さんは「ハンタくんは新しい飼い主が見つかるまで大変だったけど、余生は私が約束する」「守りたい家族が増えて、私自身の毎日が充実し、ハンタくんが私を幸せにしてくれた」と話してくださいました。原さんのその言葉からは、飼い主として、ハンタくんへの強い責任感と深い愛情がひしひしと感じられました。(B.H)

犬猫の飼い主さん募集

～新しい飼い主さんになっていただけませんか？～

センターでは、引き取った犬猫のうち、適性があると判断した犬猫を希望者に譲渡する制度があります。犬や猫の譲渡を希望される方は、是非センターまでお問合せください。ただし、犬や猫の譲渡には、以下の条件がありますので、あらかじめ御了承ください。

譲渡できる方の主な条件 (詳細は、センターへ御確認ください。)

- ・京都府域にお住まいの成人で、譲渡希望者自身が飼い主となること。
- ・ペットの飼養が制限されていない住宅にお住まいであること。
- ・飼い主として責任を持ち、家族の同意を得て、家庭で犬や猫を適正に終生飼養できること。 など

ぼくたちと暮らしませんか？

※既に譲渡先が決定している場合があります。



京都動物愛護センターへのアクセス

- 近鉄十条駅から徒歩 5分
 - 京都市営地下鉄丸丸線 十条駅から徒歩 15分
 - 京都市営バス 十条大宮停留所から徒歩 5分
- ※無料駐車場はございません。

〒601-8103 京都市南区上鳥羽仏現寺町 11 番地

TEL : 075-671-0336

FAX : 075-671-0338

開所時間 : 午前 9 時～午後 5 時

休 所 日 : 木曜日 (祝日の場合は翌平日) 年末年始

Facebook ▶ <https://www.facebook.com/anilove.kyoto/>

Twitter ▶ <https://twitter.com/kyotoanilove>

Instagram ▶ <https://www.instagram.com/kyotoanilove/>



京都動物愛護センターマスコットキャラクター
LINEスタンプ第2弾発売中



本紙の作成には「京都市動物愛護事業推進基金(人と動物が共生できるまちづくり基金)」が活用されています。動物愛護推進基金に寄附していた方のうち、希望者についてはホームページで公開しており、ふるさと納税の適用も可能です。なお、寄附の方法については、こちらのホームページを御覧ください。

▶ <http://kyoto-ani-love.com/>

この機関紙は行政とボランティアが協働で作成しています。

京都動物愛護センター機関紙



愛ランド通信

令和3年度 春号

—人と動物の共生を目指して—

LINE
スタンプ
第2弾
発売中

特集

飼う前に考える
～犬編～

犬を理解しよう

飼い方注意点

本当はこわい!?
犬・猫の寄生虫症

ペットのためのマナー&ルール
犬猫の脱走防止策
～逃げ出してしまう前に～

センターニュース
「犬と楽しく暮らすための教室」の開催
～リモートにも対応～

インタビュー 家族に迎えて
長年の願いをかなえてくれたハンタくん

犬名: らんたろう 年齢: 3カ月齢

特集

飼う前に考える～犬編～ 犬を理解しよう

昨今、犬・猫を飼っている方は多く、最近では多頭飼いも珍しくありません。SNSやブログではペットとの日常をつづった日記や写真をたくさん見かけます。その愛らしい姿を見て、これから犬・猫をおうちに迎えたいと思う方も多いのではないのでしょうか。

ただ、犬・猫も生き物であり、感情もあります。ただ、かわいいから飼うというのではなく、犬猫のことをしっかりと理解しておくことで、一緒に楽しく暮らすことができます。今回は、犬を飼う前に知っておきたいことをご紹介します。

犬を迎えるうえで大切なこと

犬の寿命は犬種や個体によって様々ですが、中には15年以上生きる犬もいます。犬を飼うということは、その犬が亡くなるまで面倒をみる、命を預かるということです。毎日の食事や散歩、しつけ、健康と安全管理など全てが飼い主の責任となります。犬と暮らす毎日はとても楽しく幸せなものです。犬を理解せずに安易に飼ってしまうと、十分に世話ができない場合もあります。飼う前にきちんと情報を集め、検討しましょう。

「こんなはずじゃなかった」

犬との暮らしの事例



▲かわいい瞬間♪

- ・子犬のときに想像していた以上に、体が大きくなった。
- ・人を攻撃したりほえたり、問題行動を起こしてしまう。
- ・転勤、転居で犬が飼えなくなってしまった。
- ・自分の加齢や健康面が原因で世話ができなくなった。
- ・医療費や食費など、経済的な負担が思った以上に大きかった。



▲ごはんは気に入ってくれたかな？

犬との暮らしで変わる生活（ライフスタイル）

飼い主のライフスタイルは犬の成長にあわせて変化します。子犬・成犬・シニア犬、それぞれの時期で気を付けることが違うからです。子犬や成犬とはドッグランや散歩、ときには一緒に旅行に出かけたり、アクティブに過ごす時間も多くなります。シニア犬になると運動量も低下して、寝ている時間が多くなります。飼い主と寄り添って静かに過ごす時間が増えるでしょう。病気の治療や定期的な健診、犬が過ごしやすい住環境の整備など、経済的な面でも負担が大きくなる場合があります。

また、犬の飼い主には現在居住している市区町村への犬の登録と、毎年の狂犬病予防注射の接種や犬に鑑札と注射済票をつけることが法律で義務付けられています。犬にとっても飼い主にとっても大切なことですので、忘れないようにしてください。



▼大好きだよ

▲ごほうびのごはん

【子犬との暮らし】

犬種により異なりますが、生後10か月～1歳半頃までが子犬と呼ばれる時期です。子犬は、免疫力も弱く、環境の変化にもとても敏感です。ストレス等がきっかけとなり、急に体調が悪くなることもあります。毎日の食事量や運動量の変化にも気を配りましょう。また、性格が形成される子犬期は、しつけにおいて非常に重要な時期です。トイレの場所や散歩のルールを、飼い主がきちんと教える必要があります。さらに、この時期の早い段階で避妊・去勢手術を行うことで、病気の予防もできます。

子犬から成犬へ、日に日に成長していく姿を見られるのもこの時期だけ。一緒に過ごす時間は大切な思い出の1ページになるでしょう。

【子犬の特徴】

- 体** : 脳や感覚器官、内臓器官、骨格、筋肉などが未発達
- 散歩** : 1日1時間程度。1日1回か、2回に分けてもよい。
- 性格** : 好奇心旺盛で活発。たくさん遊ぶ時間が必要
- 健康管理** : 体調を崩しやすい。混合ワクチンは2回必要
- 食事** : 成犬よりも多くのエネルギー、たんぱく質、脂質などが必要。体が小さく少量ずつしか食べられないので、1日の食事回数を増やす。

犬とずっと一緒に暮らす

犬との暮らしがイメージできたでしょうか？犬は言葉を話しません、しぐさや鳴き声などで感情を伝えてくれます。犬の出すサインに注意し、犬のことを理解してあげてください。ときにはしつけがうまくいかなかったり、体調を崩して病気になってしまうこともあるかもしれません。

どんなときでも犬のことを理解して愛情を注げば、犬はそれ

【成犬との暮らし】

小型犬なら生後10か月頃から、大型犬なら1歳半頃から成犬となります。この時期で気を付けたいことのひとつが、つい食べさせ過ぎてしまうことによる肥満。肥満は、足腰や心臓などの内臓に負担をかけ、短命の原因になるとされています。そうならないために、食事量の管理や適切な運動を心掛けましょう。

成犬は体も成長し、体力もあり、最も活発な時期です。外で遊ぶのが好きな犬なら、ドッグランや旅行などで一緒に楽しむ時間も増えるでしょう。



▲今日は何して遊ぶ？

【成犬の特徴】

- 体** : 犬種によっては、体重が50kgくらいまで成長する。
- 食事** : 成長が落ち着いたら子犬用から成犬用へフードを切り替える。食事1日2回に、犬の体質や運動量を確認しながら食事量を調整する。
- 散歩** : 1日1時間程度。1日1回か、2回に分けてもよい。力も強くなるので、リードを引っ張ったり、ほかの犬や人にほえたりしないよう、しつけをしっかりと。
- 健康管理** : 定期的な健康診断で健康チェックの習慣を。病気の早期発見と治療にもつながる。

【シニア犬との暮らし】

大型犬なら6歳、小型犬なら10歳くらいからシニア犬といわれ、健康や暮らし方について、改めて見直す時期となります。顔や体に白髪が生えたり、動きがゆっくりになったり、老化のサインが次第に現れてきます。人との生活に慣れ、落ち着いて寄り添ってくれるのがシニア犬の魅力です。

若い頃以上にバランスの良い食事、ストレスのない生活、定期的な健康診断で健康管理をしてください。

筋力や関節も弱くなるので、室内の段差解消のためにスロープを設置したり、ぶつかりやすい柱へクッションを巻いたりといった、住環境の整備も考えましょう。

【シニア犬の特徴】

- 体** : 臓器の疾患、目や耳、筋力・関節の衰えが出てくる。認知症や寝たきりになる場合もある。
- 食事** : 基礎代謝が低くなるのでエネルギー量を調整する。犬が食べにくそうなときはドライフードをお湯やスープでやわらかくしたり、ウェットフードを使うなど工夫も必要。
- 散歩** : 散歩を嫌がる場合は、無理はしない。元気であれば、1回10分を目安に1日2～3回、足腰の衰えを予防する。
- 性格** : 不安の増加や忍耐力低下。若い頃より甘えてくる犬もいる。



▶どんな夢を見ているのかな？

▶高齢犬でも散歩好き

以上に応えてくれるでしょう。たくさんの幸せを分かち合える、大切な家族になってくれます。家族として迎えた日からいつか訪れる別れのときまで、「ずっと一緒に暮らす」こと。犬とあなたが幸せに暮らせるように、おうちに迎える前に必ず考えてほしいと思います。

(島口)



本当はこわい!? 犬・猫の寄生虫症

犬・猫に感染する寄生虫にはどのようなものがありますか？

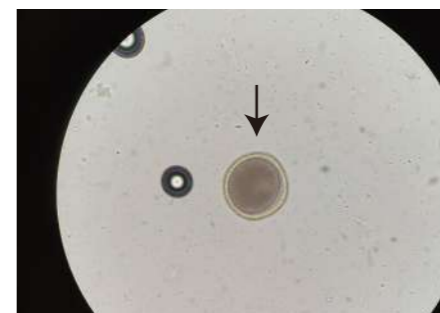
代表的なものとして、コクシジウム、回虫、瓜実条虫などがあります。また、皮膚炎などを起こすノミ・ダニや、蚊に刺されることで感染するフィラリアなども、寄生虫に含まれます。



▶回虫の成虫。感染個体の糞便で確認される。

室内で飼っている犬や猫も感染しますか？

散歩中に他の犬・猫の排泄物に触れることで感染することがあります。また、室内で蚊にさされたり、外出中に人の靴の裏や服についたノミ・ダニが室内に持ちこまれて感染することがあります。



▲矢印：回虫の卵（顕微鏡下）

予防や駆虫はできますか？

ノミ・ダニには専用の予防薬があります。また、回虫や瓜実条虫のような、お腹の中に寄生する虫の場合、糞便検査によって虫卵を見つけ、薬を飲むことで駆虫することができます。

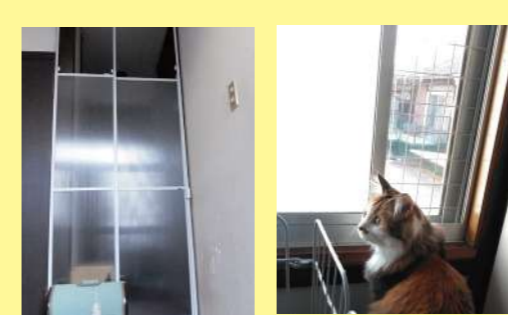
ただし、体外に排泄された糞便の中に存在する虫卵は、環境条件によっては長期間感染力を持ち、再感染を起こすこともあります。

寄生虫症は、ある程度症状が出てからでないと、気がつかないことがあります。特に野良猫を保護した場合には、皮膚にノミやダニが潜んでいたりと、おなかの中に虫がいる場合があるので注意が必要です。かかりつけの動物病院を受診のうえ、日頃から予防に取り組みましょう。(桂)

ペットのための マナー&ルール

犬猫の脱走防止策 ～逃げ出してしまう前に～

京都動物愛護センターには、おうちから犬や猫が逃げ出してしまったという失踪情報が多数寄せられます。特に帰宅した際に犬・猫がいることに気付かず、扉を開けてしまい飛び出ってしまったなど、玄関ドアや窓の開閉時に逃げ出す事例が後を絶ちません。対策としては、玄関に突っ張り棒を利用したついで（写真）を設置したり、窓の網戸を開けられないようにテープで固定をしたり、ストッパー（写真）を取り付ける、といった方法があります。「うちの子は大丈夫」と思わずに、十分に注意しましょう。(こえだ)



▲玄関に設置する衝立

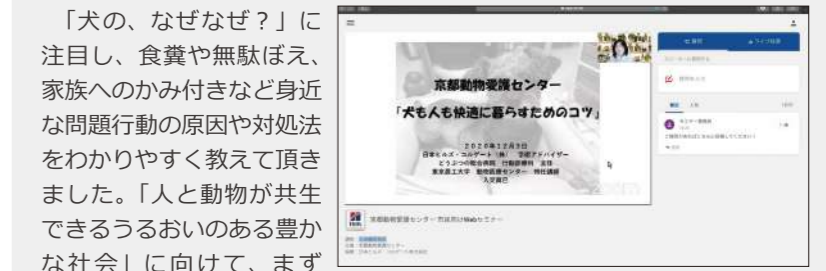
▲窓からの脱走を防止するストッパー

「犬と楽しく暮らすための教室」の開催 ～リモートにも対応～



▲オフライン会場の様子

12/3(木)に京都動物愛護センターにおいて「犬と楽しく暮らすための教室」が開催されました。今回は新型コロナウイルス感染症対策に配慮し、オンラインとオフラインでの同時開催となりました。はじめに職員から愛護センターについての紹介や説明があり、続いて講師としてお招きした入交真巳先生による『犬も人も快適に暮らすためのコツ』の講演が行われました。



「犬の、なぜなぜ？」に注目し、食糞や無駄ぼえ、家族へのかみ付きなど身近な問題行動の原因や対処法をわかりやすく教えて頂きました。「人と動物が共生できるうるおいのある豊かな社会」に向けて、まず飼い主として自分達ができることが何かを考えるきっかけとなる、とても勉強になる講演でした。(福嶋)

▲講義のオンライン画面